特集 祝日本遺産認定

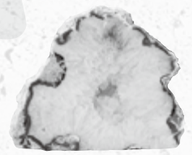
こんなにすごい！こまつの「石の文化」

問い合わせ　観光交流課　☎24・8076

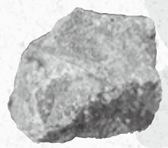
4月25日、地域にある歴史的魅力や特色をまとめたストーリーを文化庁が認定する「日本遺産」に、小松市の『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」が選ばれました。これを機に、2300年前から続く石の文化の魅力に触れてみませんか。

小松の恵まれた石の資源

約2千万年前、活発な火山活動により、小松市に金や銅の鉱石、オパール、水晶などの宝石、九谷焼の原料となる陶石などが誕生しました。

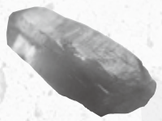


水晶の群晶（菩提産）



黄銅鉱（尾小屋銅山産）

オパール（赤瀬産）



紫水晶

菩提石（蜂巣石）

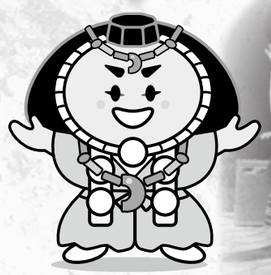
瑪瑙

滝ヶ原石

日華石（観音下石）

小松にはこんなにたくさんの種類の石があるんだね。ほかにもまだまだあるみたいだよ。びっくり!!

石の文化の魅力をみんなに知ってもらいたくて、専用のホームページを作りました。石の文化の紹介動画も配信しているので、ぜひご覧ください。
http://www.komatsuguide.jp/komatsu-stone/



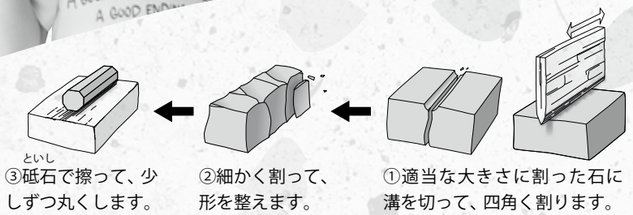
AR

弥生時代から続くものづくりの技術

小松の弥生人のすごい技

弥生時代、八日市地方では緑色の宝石である碧玉を最先端の技術で加工した管玉と、ヒスイの勾玉を組み合わせた首飾りなどが多く作られました。高度な技術により完成した美しい小松のアクセサリーは、当時北部九州の王たちを魅了しました。

◎管玉の作り方



①適当な大きさに割った石に溝を切って、四角く割ります。
②細かく割って、形を整えます。
③砥石で擦って、少しずつ丸くします。
④石の「針」で擦って、穴を開けます。
⑤もう一度丁寧に磨いてツヤを出します。
完成

弥生人はどうして小松のアクセサリーを求めたんだろう？

天理大学客員教授
深澤芳樹さん

弥生人が求めた色

弥生時代では身に着けるアクセサリーの色に厳しい約束事がありました。その色を達成・実現するために素材が選ばれます。

重視した色は青緑色と白色。碧玉の緑には「新芽」すなわち自然や生命を感じる神秘があります。その緑から安らぎを感じることは弥生人も今を生きる私達も変わらないのではないでしょうか。

美にこだわった小松城の石垣

県立小松高校の横に今も残る小松城本丸櫓台の石垣は、加賀前田家三代利常公が大改修した時のものです。当時の最新工法を採用し、色の異なる石をうまく組み合わせて作られているため、美しいデザインとなっています。

◀隙間ができないよう精密に加工してから積み上げる工法「切り込み接ぎ」で作られた石垣

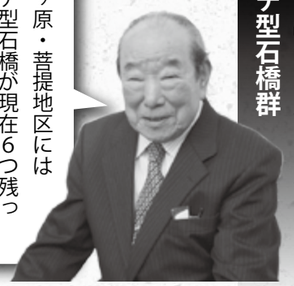
全国で使われた日華石（観音下石）

観音下町で採れる日華石は温もりのある黄色い色合いと丈夫で細工しやすいのが特徴です。市内の酒蔵のほか、国会議事堂など全国の有名な建築物にも使用されています。

観音下石材
代表　橋本康容さん

東酒造の酒蔵（国登録文化財）

「石の里」滝ヶ原町に残るアーチ型石橋群



滝ヶ原・菩提地区にはアーチ型石橋が現在6つ残っています。一つの地域に幾つもの石橋があるのは大変珍しく、本州ではこの地域でしか見ることができません。

荒谷商店　代表　荒谷薫さん

碧玉アクセサリーの復活

県内の女性デザイナーグループ「金澤（かなざわ）女子店舗」は碧玉を使ったアクセサリーなどの制作を行っています。今後も石の文化の素晴らしさを子供達にも伝えていくために、デザイナーとしてできることに挑戦しています。

金澤女子店舗の皆さん

世界に発信、ジャパンクタニ

九谷焼の原料となる陶石は花坂地区で採れます。若手九谷焼作家を中心としたグループ「FRIT（フリット）」は、九谷焼の新たな可能性を見いだすため、スウェーデンのデザイナーと協働で、和と洋を融合した作品づくりを始めています。

FRIT（フリット）
吉田るみこさん

スウェーデン大使館で開かれた展示会

次々に展開する石のストーリー物語

日本遺産認定記念展

5月にサイエンスヒルズこまつで行われた「珠玉と石の文化展」の第2弾を開催します。小松の多彩な「石の文化」をお楽しみください。

とき　6月18日（土）～9月11日（日）　**ところ**　博物館
開館時間　9時～17時（入館は16時30分まで）
入館料　一般300円、高校生以下無料
休館日　月曜日、祝日の翌日
問い合わせ　博物館　☎22・0714

これから創り上げる新しい未来

今後は、小松の石の歴史や文化を子供達に伝える「未来へつなぐ」活動や、国内外に魅力を発信する「未来を拓く」取り組みなどを進めていきます。

PASS THE BATON

未来を拓く

◎専門家、大学、研究機関との連携
- 専門家からの提言
- 金沢大学、国立文化財研究所などとの連携

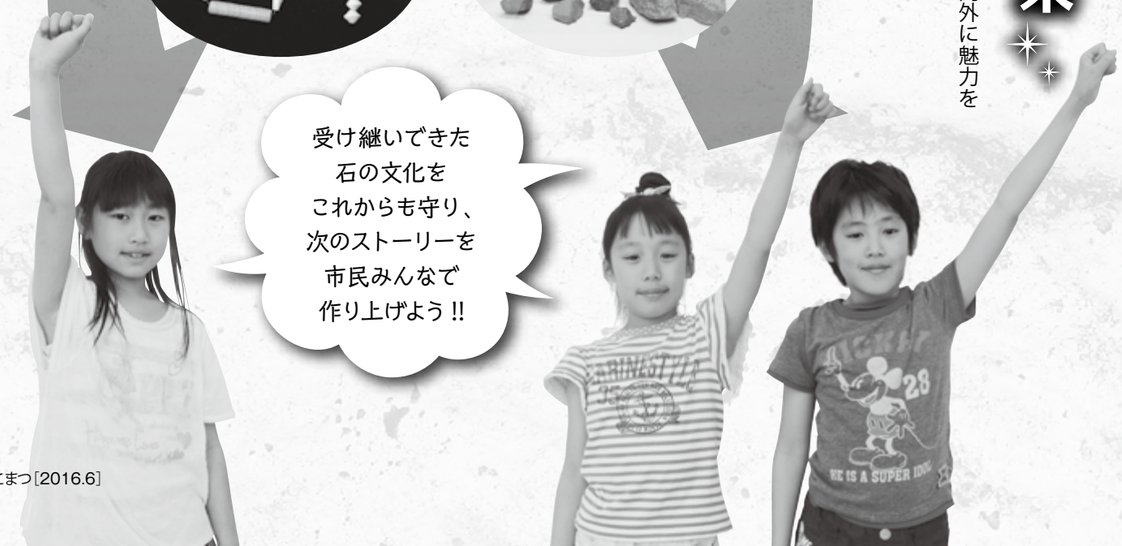
◎観光資源としての整備
- 案内ルートの整備
- 安全対策
- 案内看板の設置

◎商品、ビジネスへの展開
- アクセサリーなどの新商品開発
- 旅行会社との連携

未来へつなぐ

◎こども「石と歩む」プロジェクト
- 副読本の作成
- 遠足プログラム
- 石の歴史年表の作成

◎石の文化を継承する人材育成
- 技術の継承
- 案内ガイドの育成
- 出前講座

◎市民と共創で行う取り組み
- 資源の活用策の検討
- 受け入れ体制の強化
- 資源の保全

受け継いできた
石の文化を
これからも守り、
次のストーリーを
市民みんなで
作り上げよう!!